2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　フリュー株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　6238　　ＵＲＬ　https://www.furyu.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）榎本　雅仁
問合せ先責任者　（役職名）財務経理部　部長　　（氏名）宇治　淳平　　ＴＥＬ　03-5728-1761

半期報告書提出予定日　　2026年11月13日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	25,279	17.7	2,033	13.2	2,031	13.9	1,292	14.8
2026年３月期中間期	21,482	△0.4	1,796	37.6	1,783	32.0	1,125	25.1

（注）包括利益　2027年３月期中間期　1,139百万円（△0.6%）　2026年３月期中間期　1,146百万円（85.9%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	48.79	－
2026年３月期中間期	42.51	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	30,285	23,716	78.3
2026年３月期	30,335	23,627	77.9

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　23,716百万円　2026年３月期　23,627百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	40.00	40.00
2027年３月期	－	0.00			
2027年３月期（予想）			－	40.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,000	20.6	4,000	20.6	4,000	21.1	2,500	21.3	94.39

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　1社　（社名）　广州芙游娯楽有限公司　、　除外　－社　（社名）

（注）詳細は、添付資料Ｐ．８「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）」をご覧ください。

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料Ｐ．８「２．中間連結財務諸表及び主な注記（４）中間連結財務諸表に関する注記事項（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）」をご覧ください。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	28,296,000株	2026年３月期	28,296,000株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	1,797,930株	2026年３月期	1,809,258株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	26,490,804株	2026年３月期中間期	26,481,594株

（注）期末自己株式数には、「株式給付信託（BBT-RS）」が保有する当社株式（2027年３月期中間期　343,200株、2026年３月期　110,828株）が含まれております。また、「株式給付信託（BBT-RS）」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2027年３月期中間期　151,585株、2026年３月期中間期　116,591株）。

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）当中間期のキャッシュ・フローの状況の分析 …… 3
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 5
中間連結損益計算書 …… 5
中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 7
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記） …… 8
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 9
（重要な後発事象の注記） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間（2026年４月１日～2026年９月30日）におけるわが国の景気動向は、金融政策の正常化が進む中、企業の賃上げの動きは継続しているものの、円安を背景とした物価上昇の影響により、消費者の節約志向は依然として根強く、先行きは不透明な状況であります。海外経済におきましても、経済成長における地域的なばらつきや、サプライチェーンに対する地政学リスクの影響など、予断を許さない状況が続いております。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する！」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層に強みを持つ当社の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、キャラクターIP（知的財産）を利用した商品販売に注力し、2028年３月期を最終年度とする「中期ビジョン」実現に向けた取り組みを行いました。

この結果、当中間連結会計期間の連結業績は、売上高は25,279百万円（前年同期比117.7%）、営業利益は2,033百万円（前年同期比113.2%）、経常利益は2,031百万円（前年同期比113.9%）、親会社株主に帰属する中間純利益は1,292百万円（前年同期比114.8%）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

（世界観ビジネス）

世界観ビジネスにおきましては、定番キャラクターや、人気漫画作品及び世界的人気ゲーム等のトレンドを踏まえた多数のIPの獲得とその商品化に引き続き注力し、売上は順調に拡大しました。

クレーンゲーム景品は、クレーンゲーム市場拡大と複数の人気IPの商品化により売上を拡大しました。

海外物販は、新規販路の拡大や海外向けの商品化権の取得に注力し、商品展開の拡大を図ったことにより、主に米国を中心に、売上が前年同期比で伸長しております。

高価格帯ホビーは、収益性を意識した商品開発を推進し、ホビーECサイト「FURYU HOBBY MALL(フリューホビーモール)」を活用した販売促進に引き続き注力しております。

為替変動に対しては、海外販売先との米ドル建て取引を拡大することによって米ドル買い需要を抑制するとともに米ドル建ての仕入費用支払に対する為替予約を実施することにより、売上原価への影響を抑制しております。

この結果、世界観ビジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は16,697百万円（前年同期比123.1%）、営業利益は1,500百万円（前年同期比110.8%）となりました。

（ガールズトレンドビジネス）

プリントシール事業におきましては、ライフスタイルやニーズの多様化といった外部環境の変化に対応するため、ユーザーの体験価値を最大化する新機種の開発や、話題性の高いIPとのコラボレーションの推進に注力いたしました。

2026年６月には、自分好みのシールの仕上がりを追求できる最新プリ機『FLASH(フラッシュ)』を順次設置開始したほか、人気インフルエンサーのプロデュースによる最新プリ機『PURICO(プリコ)』を市場投入するなど、多様なニーズに応える機種展開を行いました。併せて、６月20日からはプリを２回プレイすると当日３回目のプリ画像が無料でダウンロードできるサービスを実施し、全国のアミューズメント施設と連携したプレイ促進を図りました。また８月には期間限定で５人組ダンスボーカルグループ「M!LK」とのコラボレーションを『CENTI:U（センチユー）』および『Meidy（メイディー）』の２機種で実施しプレイ回数を押し上げる起爆剤となりました。

これらの新機種やコラボで挽回したものの、前年実績には及ばず当中間連結会計期間のプレイ回数は1,355万回（前年同期は1,362万回）となりました。

また、プリントシール画像で撮影したプレシャスな思い出を閲覧・保管するサービス「ピクトリンク」におきましては、前年７月に実施した価格統一の効果により、重要なKPIと位置付けている有料会員数は、2026年９月末時点で117万人（2025年９月末時点は126万人）となったものの利益貢献しました。

この結果、ガールズトレンドビジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は7,554百万円（前年同期比110.3%）、営業利益は1,765百万円（前年同期比116.0%）となりました。

（フリューニュービジネス）

家庭用ゲームソフト事業につきましては、当期の新規発売タイトルが不在であったものの既存タイトルの国内外におけるダウンロード販売に注力した結果が実り、売上高は前年同期と同水準となりました。

アニメ事業は、『「お前ごときが魔王に勝てると思うな」と勇者パーティを追放されたので、王都で気ままに暮らしたい』の商品化権収入や、アニメ制作受託収入、過去作品の配分金等が売上に貢献しました。一方、前年同期に計上した『ゆるキャン△ SEASON３』に係る収入の反動減等により、売上高は前年同期を下回りました。

利益面につきましては、アニメ事業を営む子会社のフリュー・ピクチャーズ株式会社において、2026年６月に実

施したオフィス移転に伴う一時的な費用の発生が影響しております。
この結果、フリューニュービジネスにおける当中間連結会計期間の売上高は1,027百万円（前年同期比96.1%）、営業損失は147百万円（前年同期は49百万円の営業損失）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況
当中間連結会計期間末の財政状態は、総資産が30,285百万円、負債が6,568百万円、純資産が23,716百万円となりました。また、自己資本比率は78.3%となりました。

（資産）
資産につきましては、前連結会計年度末に比べ50百万円減少し、30,285百万円となりました。これは主に電子記録債権の増加430百万円、棚卸資産の増加293百万円、無形固定資産の増加84百万円があった一方で、現金及び預金の減少537百万円、受取手形及び売掛金の減少172百万円、流動資産のその他の減少186百万円があったことによるものであります。

（負債）
負債につきましては、前連結会計年度末に比べ138百万円減少し、6,568百万円となりました。これは主に流動負債のその他の増加399百万円があった一方で、買掛金の減少441百万円、未払法人税等の減少158百万円があったことによるものであります。

（純資産）
純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ88百万円増加し、23,716百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益計上に伴う利益剰余金の増加1,292百万円があった一方で、配当金の支払いによる利益剰余金の減少1,063百万円、繰延ヘッジ損益の減少154百万円があったことによるものであります。

（３）当中間期のキャッシュ・フローの状況の分析
当中間連結会計期間の現金及び現金同等物は、営業活動による収入が1,476百万円、投資活動による支出が961百万円、財務活動による支出が1,067百万円となった結果、前連結会計年度末に比べ541百万円減少し13,204百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）
営業活動においては、税金等調整前中間純利益を2,027百万円、減価償却費を894百万円計上しました。また、売上債権は258百万円増加、棚卸資産は293百万円増加、仕入債務は428百万円減少、法人税等の支払額は880百万円となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、1,476百万円の収入（前中間連結会計期間は1,958百万円の収入）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）
投資活動においては、有形固定資産の取得による支出が798百万円、無形固定資産の取得による支出が178百万円となりました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、961百万円の支出（前中間連結会計期間は1,289百万円の支出）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）
財務活動においては、セール・アンド・リースバックによる収入が1,031百万円、リース債務の返済による支出が1,035百万円、配当金の支払額が1,063百万円となりました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、1,067百万円の支出（前中間連結会計期間は1,040百万円の支出）となりました。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明
連結業績予想につきましては、2026年11月13日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」の通り修正しております。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,752,896	13,215,795
受取手形及び売掛金	4,886,216	4,713,521
電子記録債権	1,135,446	1,566,296
棚卸資産	3,120,068	3,413,155
その他	2,220,040	2,034,033
貸倒引当金	△6,003	△3,254
流動資産合計	25,108,665	24,939,548
固定資産		
有形固定資産	2,595,325	2,553,760
無形固定資産	988,329	1,072,515
投資その他の資産		
その他	1,801,882	1,863,057
貸倒引当金	△158,463	△143,348
投資その他の資産合計	1,643,419	1,719,708
固定資産合計	5,227,074	5,345,984
資産合計	30,335,740	30,285,532
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,101,636	660,091
電子記録債務	403,509	416,500
未払法人税等	949,029	790,714
受注損失引当金	16,342	29,049
その他	3,869,534	4,269,188
流動負債合計	6,340,053	6,165,544
固定負債		
役員株式給付引当金	11,989	9,383
退職給付に係る負債	328,459	358,598
その他	27,421	35,431
固定負債合計	367,870	403,413
負債合計	6,707,923	6,568,957
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,614,716	1,693,994
利益剰余金	22,121,927	22,350,410
自己株式	△1,940,349	△2,006,937
株主資本合計	23,435,509	23,676,683
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	83,034	△71,964
為替換算調整勘定	17,456	21,136
退職給付に係る調整累計額	91,815	90,719
その他の包括利益累計額合計	192,306	39,891
純資産合計	23,627,816	23,716,575
負債純資産合計	30,335,740	30,285,532

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
売上高	21,482,867	25,279,826
売上原価	13,036,767	15,796,445
売上総利益	8,446,100	9,483,381
販売費及び一般管理費	6,649,520	7,450,098
営業利益	1,796,579	2,033,282
営業外収益		
受取利息	160	383
還付消費税等	366	35
物品売却益	－	446
その他	109	773
営業外収益合計	635	1,638
営業外費用		
支払利息	104	158
為替差損	9,943	1,094
支払手数料	－	1,734
投資事業組合運用損	1,920	－
その他	1,286	757
営業外費用合計	13,255	3,745
経常利益	1,783,960	2,031,176
特別利益		
固定資産売却益	－	289
特別利益合計	－	289
特別損失		
固定資産除売却損	4,045	2,031
減損損失	78,661	2,279
特別損失合計	82,707	4,311
税金等調整前中間純利益	1,701,252	2,027,154
法人税等	575,481	734,769
中間純利益	1,125,770	1,292,385
親会社株主に帰属する中間純利益	1,125,770	1,292,385

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
中間純利益	1,125,770	1,292,385
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	44,520	△154,998
為替換算調整勘定	△24,413	3,680
退職給付に係る調整額	409	△1,096
その他の包括利益合計	20,517	△152,415
中間包括利益	1,146,287	1,139,970
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	1,146,287	1,139,970

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,701,252	2,027,154
減価償却費	1,033,119	894,167
減損損失	78,661	2,279
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△2,679	△17,863
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	24,603	29,042
受取利息及び受取配当金	△160	△383
支払利息	104	158
為替差損益（△は益）	4,387	△7,220
固定資産除売却損益（△は益）	4,045	1,742
売上債権の増減額（△は増加）	151,587	△258,155
棚卸資産の増減額（△は増加）	△393,275	△293,086
未収入金の増減額（△は増加）	71,018	△37,283
前渡金の増減額（△は増加）	291,253	10,463
仕入債務の増減額（△は減少）	△282,035	△428,576
未払金の増減額（△は減少）	△29,514	△123,795
未払費用の増減額（△は減少）	△215,298	△72,068
契約負債の増減額（△は減少）	△102,289	472,385
その他	△358,694	158,436
小計	1,976,086	2,357,395
利息及び配当金の受取額	160	383
利息の支払額	△104	△158
法人税等の支払額	△68,703	△880,796
法人税等の還付額	51,162	－
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,958,601	1,476,823
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△913,251	△798,180
有形固定資産の売却による収入	746	1,002
無形固定資産の取得による支出	△411,831	△178,060
差入保証金の差入による支出	△493	△12,637
差入保証金の返還による収入	30,871	26,153
その他	4,120	165
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,289,838	△961,557
財務活動によるキャッシュ・フロー		
セール・アンド・リースバックによる収入	913,147	1,031,348
リース債務の返済による支出	△916,042	△1,035,320
配当金の支払額	△1,037,348	△1,063,902
自己株式の取得による支出	△5	△343,000
自己株式の処分による収入	－	343,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,040,248	△1,067,874
現金及び現金同等物に係る換算差額	△28,249	11,031
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△399,734	△541,576
現金及び現金同等物の期首残高	11,728,385	13,745,888
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,328,650	13,204,311

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）

（連結の範囲の重要な変更）

当中間連結会計期間より、新たに設立した广州芙游娯楽有限公司を連結の範囲に含めております。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ 前中間連結会計期間（自 2025年４月１日 至 2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	世界観ビジネス	ガールズトレンドビジネス	フリューニュービジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	13,566,084	6,847,388	1,069,394	21,482,867	－	21,482,867
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	13,566,084	6,847,388	1,069,394	21,482,867	－	21,482,867
セグメント利益又は損失（△）	1,354,965	1,521,483	△49,412	2,827,036	△1,030,457	1,796,579

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額△1,030,457千円には、セグメント間取引16,016千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,046,473千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ガールズトレンドビジネス」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては78,661千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間連結会計期間（自 2026年４月１日 至 2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	世界観ビジネス	ガールズトレンドビジネス	フリューニュービジネス	計		
売上高						
外部顧客への売上高	16,697,758	7,554,779	1,027,289	25,279,826	－	25,279,826
セグメント間の内部売上高又は振替高	27	－	504	531	△531	－
計	16,697,786	7,554,779	1,027,793	25,280,358	△531	25,279,826
セグメント利益又は損失（△）	1,500,737	1,765,173	△147,218	3,118,692	△1,085,409	2,033,282

（注）１．セグメント利益又は損失の調整額△1,085,409千円には、セグメント間取引14,626千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,100,035千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ガールズトレンドビジネス」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては2,279千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

（重要な後発事象の注記）

（自己株式の取得）

当社は、2026年11月13日開催の取締役会において、会社法第459条第１項及び当社定款の定めに基づき、下記の通り、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

１．自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上及び株主還元の充実を図るため、自己株式の取得を実施いたします。

２．取得に係る事項の内容

(1)取得する株式の種類：当社普通株式
(2)取得する株式の総数：2,500,000株（上限）
［発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合9.43%］
(3)株式の取得価額の総額：3,000,000千円（上限）
(4)株式を取得する期間：2026年11月20日～2027年３月23日
(5)株式の取得方法：東京証券取引所における市場買付け

（ご参考） 2026年9月30日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数（自己株式を除く）	26,498,070株
自己株式数	1,797,930株

（注）自己株式数には、「株式給付信託（BBT-RS）」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託Ｅ口）が所有する当社株式343,200株を含めております。